

第78回 西田讀書會

前回（2015年6月6日、第77回）プロトコル

出席者：佐野教授、有江、岡田、岡部、来栖、桑原、杉山、奈原、橋本、福田

担当：杉山元治

1. 山大生2名の初参加もあり、佐野教授（以下、佐野Pr）より讀書會の今までの経過説明があった。特に直接経験（純粹経験）の事実としての「見神の事実（2-10-4）」について言及され、綱島梁川の見神体験についての紹介があった。

## 2. 1-1-1

上田閑照先生の純粹経験には3つのレベルがある（佐野Pr）。

- 1) 原始の直接経験（いまだ主もなく客もなく）
- 2) 直接なる具体的経験（2-3-2）
- 3) すべての意識現象・実在

1) は意識状態ではない…行（禪に近い）である。反省（考えること）を停止し、見ている私を物の中に消し（物になり切る）努力（行）によって到達（脱自）できる境地である。すなわち脱自状態が純粹経験である。

しかし総じて経験困難である。

2) は一つの集中状態が忘我の状態であり、一時の意識状態である。

1) より2) のほうがレベルが高いと思う（N氏）

そのことはとても重要なことだとして、直接経験…独立自全の純活動（2-3-1）に言及された（佐野Pr）。

さらに3-11-3より、人格の内面的必然すなわち至誠について：

人格を発現するのは一時の情欲に従うのではなく、最も厳粛なる（自己の）内面の要求（人格的要求すなわち至誠）に従うのである。

また3-13-4より：

真の善とはすなわち真の自己（宇宙＝自己）を知るということであり、これが宗教（美術、道徳）の極意（極致）である（再生・見性にあたる）として、

「真の自己を知れ」・・・西田先生のメッセージである（佐野Pr）。

しかし、それ（真の自己を知れ）ができないことより～

4-1-1から、宗教的要求は自己に対する要求である。

相対的にして有限であることを覚知せよ。

続いて4-2-1から、宗教とは「神と人間との関係」である：

神と人間との関係は「見神の事実」において三重（①+②+③）の関係にある。

①神は宇宙の根本であって兼ねて我々の根本

人間の根本＝神

4-2-3から、また、我々はこの自然（自己）の根柢において、神をみればこそ無限の暖かさを感じ、宗教の神髓に達することができる。

②愛（二つの人格が合して一となる）

③敬（部分的人格が全人格に対して起こす感情）

3. 1-1-2

ここでは「現在」がキーワードである（佐野Pr）。  
感覚・感情・意識・情意・意志、つまり〈知・情・意〉は、  
現在の意識としてまとめられる（N氏、佐野Pr）。

4. 1-1-3

純粹経験はいかに複雑であっても、その瞬間（物理的時間の長短ではなく）においてはいつも単純な  
一事実である。意識の焦点はいつでも現在である。

哲学的問い

1. 「神意」とは何か。
2. 神意と神（としての宇宙）の統一力はどのような関係なのであろうか。
3. 神に意は、はたしてあるものであろうか。

\*我々の真の自己は宇宙の本体である。真の自己を知ればただに人類一般の善と合するばかりでなく、  
宇宙の本体と融合し神意と冥合するのである（3-13-4）

\*我々が神意として知るべきものは自然の理法あるのみである（4-2-3）。